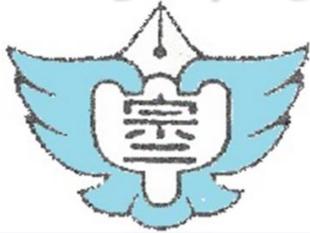


# 宗岡二中だより 11月号



令和7年11月4日

自ら学び考える生徒

学校教育目標：心豊かな優しい生徒

明るく元気な生徒

## 精悍な野鴨であれ！

Be Wild Ducks!

校長 伊藤大輔

本校の校章は「ペンを鳥の頭に、本を開いた形を羽に見立てて、未来に向かって大きく羽ばたく様」を表しています。力を蓄え、高みを目指す未来志向の姿勢。これこそが宗岡二中が開校以来、大切に育み、受け継いできた基本精神であると私は捉えています。先月十八日に四十四年目を迎え、その歳月を支えた宗岡二中の魂です。校章が象徴する力強く羽ばたく姿から、ある話を思い出しました。以下に紹介します。

「ジールランド地方の古城を映す湖には、毎年鴨が飛んできます。そこにはいつも餌を用意した老人が待っていました。渡り鳥は季節が移ると次の土地に向かって飛び立つものですが、いつしか鴨たちは食べ物に恵まれて、次の湖へ飛び立つ必要がないと思い、そこに住み着いてしまいました。ある年、その老人が亡くなりました。餌をもらえなくなった鴨たちは、本来は自分で餌を探しに次の湖へ飛び立たねばなりません。しかし飛べません。なぜなら、野生を無くしてしまった鴨たちはまるでアヒルのように肥(こ)えてしまい、羽ばたいても飛べなくなっていたからです。やがて、春の雪解けの濁流が湖に流れ込んできました。太った鴨たちは、なすすべもなく押しながされて死に絶えてしまいました。」

これは実話ではありません。デンマークの哲学者キェルケゴールが、療養中に湖畔に渡ってくる鴨たちを眺めながら、心に浮かんだ想いをまとめた話です。そして、「野鴨を馴らすことはできるだろう。しかし、馴らした鴨を野生に返すことはできない。また、馴らされた鴨はもはやどこへも飛んで行くことはできない。」とキェルケゴールは結びます。

この話に感銘を受けた人物が自身の会社を世界的企業に育て上げました。IBMの創業者トーマス・

ワトソンです。彼は”Be Wild Ducks!”を合言葉に「餌を人間から与えられた飛べない鴨にはなるな。常に数千キロを命がけで渡りゆく精悍(せいかん)な野鴨であれ。」と社員に伝え続けたそうです。

さて学校は下半期を歩み始めました。これまでの取組をふりかえる適期です。ふりかえりは、まとめではありません。反省でもありません。過去から「今」をつかむ営みです。そして、過去から「これから」を展望する営みです。より良い明日(未来)となるように過去から学ぶのです。良かった／悪かった、できた／できなかった、わかった／わからなかった・・・どんな軸でもいいです。一週間前の、昨日の、一時間前の、数分前の姿から「今」の姿を捉える。そして、より良くなるための実践につなげる。これこそが、ふりかえりの意義だと私は思います。

学習、行事、部活、友人関係などを円滑に進める原動力は、より良くあろうとする自分(たち)から湧くもので

す。日頃から自分(たち)はどうありたいのか、自分(たち)はどうなりたいのか、自分(たち)はどうすべきなのか未来志向で進めていきましょう。合唱コンクールをはじめ、二学期前半の取組(修学旅行、校外行事、新人戦、駅伝大会、生徒会選挙など)に皆さんそれぞれが相当な時間や熱量を費やしました。より良くしたいとの思いが実を結ぶ瞬間も、そこここにあったはずです。私も心震える場面に幾度も出会いました。けれど、だからこそ、現状に満足せずに、さらなる高みを目指したいのです。天高く秋空渡る鳥たちのように。



美術部の生徒作品(体育館に掲示)